



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成25年07月08日 第621号「週刊五十嵐レポート」

利は元にあり

6月で決算が終わり、7月から新たな期を迎える会社A社にて社内研修を行いました。A社は東京下町で縫製会社を営んでおり、経営計画を策定し、発表会を10年以上行なっています。研修終了後A社長との話。

顧客であるアパレルメーカーの要望は毎年厳しくなるが、かんばん方式で常にムダ・ムラ・ムリを改善しコストダウンを実現したことで、増収増益になりました。それで社員には1人当り百万円超の期末賞与を支給。ある社員は、期末賞与の明細を妻に見せたところ、妻は戸惑いながら、「こんなにもらっているの?」と言ったとのこと。

いい業績を残すことができたのは顧客はもちろんのこと、社員のお陰、そして自社の要望を聞き入れてくれた外注先である協力会社(仕入先)のお陰。

2年前の3.11では、福島県の協力会社が大打撃を受けました。協力会社は廃業することを考えていました。A社長は福島まで赴き、事業継続を要請。なんとか事業継続にこぎつけ、今日に至りました。A社長は毎年、福島の協力会社へ赴き、今年もいい業績になったので、金銭を持参しました。協力会社は驚いてしまいました。(税務上、そのままでは贈与にあたるので、商品の加工賃の単価を上げた)

この話を聞いて、「利は元にあり」を思い出しました。利益は上手な仕入れから生まれる。よい品を仕入れる。よい品物を安定的に供給してくれる仕入先を求め、その仕入先を商品を買っていただく得意先と同じように大切にすること。

最近はこの言葉を勘違いして、安く仕入れて高く売れば利益が上がる。だから1円でも安く仕入れればよいと考える人が多い。仕入先に対して「買ってやる」と横柄な態度をとる企業も多い。

A社長、A社にはどんどんいい情報や外部ブレンが集まってきます。

ちょっと
気になる出来事

中小企業の場合、社長の暴走を止めることはできるか?・・・
川崎重工のように取締役会で社長を解任することは上場企業ではできますが、オーナー兼代表取締役の社長を解任することができません。社員はただただ黙っているだけ。
戦略として正しければ「暴走」とは言われません。
戦略として間違っているから、
もしくは優先順位が間違っているから、「暴走」なのです。

社長の「暴走」を止めるのが第三者であるコンサルタントの役割でもあります。めったにありませんが、あるときは覚悟を決めて行ないます。



一口メモ
成功の秘訣

企業が労働者に要求するもの

企業は、変化を喜んで受け入れる態度を労働者に求めなければならない。革新は企業の基本的な機能の一つである以上、つまり革新を遂行するということは、企業の社会的責任である。

しかし革新を生み出すためには、企業内の人々が相互の関係や仕事の内容、習慣等を改善すること、つまり彼ら自身を変化させる必要がある。(「現代の経営」)

ドラッカー経営名言集より

●週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 ●月刊五十嵐レポートダイジェスト
●町コンランチエスター経営戦略塾「会社成功塾」 毎週日曜日 午前10時～12時。
●町コン・ランチエスター経営戦略セミナー 毎月東京開催
(株)五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

